

国語科

学年	観点	授業改善プラン
1年		<ul style="list-style-type: none"> ①課題設定の工夫、目標の明確化を一層進める。板書をより具体化し、その時間に何を学習したか、何ができるようになったかがより明確になるような板書のまとめを工夫する。毎時間、表現させる活動を取り入れる。 ②話し合い活動を重視する。課題に対し、能動的に解決を図る力を養う。発表活動の充実を図る。 ③読み取った内容を自分の言葉で書く(表現する)活動をどの単元にも取り入れる。 ④個人からグループという流れの話し合い活動を通じて、正しく読み取る意識の定着を図る。 ⑤授業で用いるワークシートや教具に一層の工夫を加え、何を学習したか、何ができるようになったかが分かるよう振り返りを行う。
2年	<ul style="list-style-type: none"> ①国語に関する関心・意欲・態度 ②話す・聞く能力 ③書く能力 ④読む能力 ⑤言語に対する知識・理解・技能 	<ul style="list-style-type: none"> ①課題設定の工夫、目標の明確化を一層進める。板書をより具体化し、その時間に何を学習したか、何ができるようになったかがより明確になるような板書のまとめを工夫する。授業では短時間に端的に説明することを意識し、生徒が主体的な学びが常に巻き起こるような教材教具の工夫をする。 ②基礎スキルの定着を図るため1分間スピーチやプレゼンテーション形式の発表を多く実施する。 ③論理的な構成や根拠の正当性・妥当性を意識して、自分の知識や経験を結び付けながら、800～1,200字程度の作文が書けるよう指導する。 ④説明的文章や文学的文章ともに、単元で習得する読解のスキルを明示する。授業での学習内容が何であったか表現させる。話し合い活動を通じて、正しく読み取る意識の定着を図る。 ⑤ひとつひとつの言葉にこだわりをもつ姿勢を養う。古文や文法の知識の定着を図るため適宜補充教室等を実施する。漢字検定3級程度のレベルを目指す。
3年		<ul style="list-style-type: none"> ①毎時間のねらいを明示して、見通しをもち自己評価を行う。標語、俳句、詩の創作に意欲的に取り組めるようにする。 ②スピーチ、意見文発表の題材、形態を工夫して発表を興味深いものにし、相互評価を行う。 ③批評文や様々な課題に対する作文をまとめ、推敲する。意見文投稿や俳句、標語コンクールに応募する。 ④読書指導、図書館を利用する授業を取り入れるとともに、新聞を活用する。また、古典学習の形態を工夫して広がりをもてるようにする。 ⑤ワークなどを活用し言葉のきまり、漢字を繰り返し学習する。

社会科

学年	観点	授業改善プラン
1年	①社会的事象への関心・意欲・態度 ②社会的な思考・判断・能力 ③資料活用の技能 ④社会的事象についての知識・理解	①基礎基本的事項の徹底を図ることができるように、発問や作業を多くして集中できる授業を行う。電子黒板で画像や映像を有効に活用する。 ②单元ごとに学習プリントなどを活用したグループ学習で思考力・表現力を高める。さらに関連した小テストを実施する。 ③白地図の作業に丁寧に取り組むよう指導する。单元ごとに学習プリントなどを活用したグループ学習で資料活用の能力を高める。さらに関連した小テストを実施する。 ④单元ごとにまとめのプリント学習で知識の定着を図る。
2年		①課題意識をもてる発問を多くする。時事問題テストを行い、社会的な興味・関心を喚起する。 ②小グループによる話し合いにより、自分で考えたことをまとめ、表現する活動を取り入れる。 ③図表を作成し、紙面にまとめる活動に取り組む。 ④ワークシートに基本事項を調べる活動や小テストの実施などで基本用語や基礎知識の定着を図る。
3年		①電子黒板で視覚に訴える活動を多く取り入れる。デジタル教科書のコンテンツを活用し、課題意識をもてる発問を多くしてワークシートで問題解決的な学習を導入する。 ②ワークシートに短文でまとめる活動や自分の考えを記入する機会を多く設ける。また、話し合いにより自分の考えをまとめ表現する活動を取り入れる。 ③図表やグラフを作成し紙面にまとめる活動に取り組む。 ④ワークシートによる反復学習や小テストを実施し基本用語や基礎知識の定着を図る。

数学科

学年	観点	授業改善プラン
1年		<ul style="list-style-type: none"> ①基本の計算を丁寧に指導する。アクティブラーニングの時間を多くとり、生徒自身が教え合いをすることで理解をより深めることができるようにする。 ②類題問題を繰り返すことで成功体験を積み重ねることができるようにする。自分の解き方を他者に説明することで、様々な考え方を共有し、さらに深い理解につなげていく。 ③基本的な問題を扱った計算コンテストや、問題集やプリント学習を繰り返し練習する。 ④知識を問う問題を丁寧に扱う。大切なことは繰り返し何度も説明し、理解を促す。
2年	<ul style="list-style-type: none"> ①数学への関心・意欲・態度 ②数学的な思考・判断・能力 ③数学的な技能 ④数量、図形などについての知識・理解 	<ul style="list-style-type: none"> ①計算の基礎基本を丁寧に指導する。生徒が考えたり活動したりする時間を多くとり、互いに教え合うことで理解をより深めることができるようにする。 ②類題問題を繰り返すことで成功体験を積み重ねることができるようにする。解法のパターンを身に付けることができるようにする。自分の解き方を他者に説明することで、様々な考え方を共有し、さらに深い理解につなげていく。 ③基礎的な問題を扱った計算コンテストの実施や問題演習の充実を図ることで反復練習を大切に学習する。 ④知識を問う問題を丁寧に扱う。大事な用語は繰り返し確認しながら説明する。また、数学の用語を使って説明させることにも取り組む。
3年		<ul style="list-style-type: none"> ①基本の計算を丁寧に指導する。アクティブラーニングの時間を多くとり、生徒自身が教え合いをすることで理解をより深めることができるようにする。 ②類題問題を繰り返すことで成功体験を積み重ねることができるようにする。自分の解き方を他者に説明することで、様々な考え方を共有し、さらに深い理解につなげていく。 ③基本的な問題を扱った計算コンテストや、問題集やプリント学習を繰り返し練習する。 ④知識を問う問題を丁寧に扱う。大切なことは繰り返し何度も説明し、理解を深める。

理科

学年	観点	授業改善プラン
1年		<p>①授業内容のねらい、まとめを明確にして理解を深めることで関心・意欲を高める。授業での発言機会を多くして意欲的に参加するよう促す。</p> <p>②観察・実験の考察をグループで話し合い、発表する機会を多く取り入れて思考力・表現力の向上を図る。</p> <p>③実験中の変化・反応に注目し、スケッチなどに必要な技能のポイントを丁寧に指導する。</p> <p>④小单元ごとに計画的に問題演習や小テストを実施し、基礎学力の定着化を図る。</p>
2年	<p>①自然事象への関心・意欲・態度</p> <p>②科学的な思考・判断・能力</p> <p>③観察・実験の技能</p> <p>④自然事象についての知識・理解</p>	<p>①ねらいを明確にした授業を行う。生徒の発言を認めることで意欲的に授業へ参加するよう促す。</p> <p>②観察・実験後に作成する考察をグループで話し合い、思考力・表現力の向上を図る。</p> <p>③実験操作の科学的根拠を理解することで、日常の物事への応用力を身に付けるよう指導する。</p> <p>④小单元ごとに計画的に問題演習を実施し、基礎学力の定着化を図る。科学的現象を自分の言葉で説明する機会を設けて理解を深めることができるようにする。</p>
3年		<p>①ねらいを明確にした授業を行う。生徒の発言を認めることで意欲的に授業へ参加するよう促す。</p> <p>②観察・実験の目的に対して考察を説明できるように指導して思考力・表現力の向上を図る。個々の考察を活かしてグループでの話し合いができるよう指導する。</p> <p>③実験中の変化・反応に着目し、気づきを重視した指導をする。</p> <p>④小单元ごとに計画的に問題演習や小テストを実施し、基礎学力の習得を図る。科学的現象を自分の言葉で説明する機会を設けて本質の理解を深めることができるようにする。</p>

音楽科

学年	観点	授業改善プラン
1年	①音楽への関心・意欲・態度 ②音楽的な感受や表現の工夫 ③表現の技能 ④鑑賞の能力	①授業のねらいを明確にして、ねらいがどの程度達成できたかという振り返りを重視する。 ②強弱の変化やハーモニー、声部の役割を知覚感受して視覚的にイメージできるようにするとともに、自分の考えを表現できるように指導する。 ③発声の練習に呼吸法を取り入れ、腹式呼吸を行う際の正しい身体の使い方が理解できるよう指導する。 ④音楽を表現する言葉や例文をあらかじめ提示するなど、発問やワークシートの工夫をする。さらに、感じたことを言葉で表現できるように指導する。
2年		①発声練習では互いの声を聴くことで課題を認識しながら練習をする。楽曲の用語や記号の意味を確認する。 ②生徒の思いや意図を引き出して整理し、共有し合える指導をする。 ③発声練習の時間を計画的に進めて歌唱の技能を高める。また、歌唱の中で培われた表現の能力を器楽にも生かすことができるように指導する。 ④言葉の材料や例文を示しながら、視点を明確にしたワークシートや発問の工夫をしていく。
3年		①授業のねらいを設定して達成カードに記入する。パート練習、クラスの雰囲気づくりなどで意欲的に活動できる環境を整える。 ②歌詞の内容を感じ取り、曲にふさわしい表現の工夫を具体的に考え自分の言葉で説明できるようにする。 ③パート練習で発生指導を行い、課題を改善する。楽典に関しては表現活動に即しながら理解できるように指導する。 ④楽典を鑑賞して曲の背景や成り立ちを理解して表現活動に生かすことができるように指導する。

美術科

学年	観点	授業改善プラン
1年		<p>①集中力や丁寧さが作品の進捗と質を上げることを作品で具体的に示す。</p> <p>②教科の特徴が表現や答えが一つではないことを提唱し、身近な参考作品に触れ、グループごとで互いの良さや表現の多様化を理解できるよう指導する。</p> <p>③用具の使い方や利用の基本や応用を至近距離で実演し、数多くの参考作品を示す。自宅でできる課題を設定して試行錯誤を重ねることで技能の向上を目指すとともに、美術への興味関心や意識を高める。</p> <p>④作者の思いや制作の目的について自分の感想をワークシート等に表現する機会を増やす。また、他者の感想も示すことができるようにする。</p>
2年	<p>①美術への関心・意欲・態度</p> <p>②発想や構想の能力</p> <p>③創造的な技能</p> <p>④鑑賞の能力</p>	<p>①身近な生徒の作品を途中経過として具体的に示すことで新しい教材への意識を高め、達成感を味わうことができるようにする。</p> <p>②アイデアのために繰り返し考え方のヒントを示し、試行錯誤に時間をかけたり参考作品を細部まで具体的に示す。</p> <p>③実演で示して練習を重ねて丁寧な作業を促して表現力を高め、達成感を味あわせる指導をする。</p> <p>④授業の最初に参考作品や生徒の作品からその良さを認め、相互理解を深める場面を習慣付ける。</p>
3年		<p>①材料や用具を充実させ意欲をより高める。制作活動時の集中力と課題を期限までに仕上げることの大切さを繰り返し説明する。</p> <p>②混色ノートを活用し実際の色を比較したり重ねたりする。ワークシートを活用し制作のヒントや条件をわかりやすく提示して表現しやすくする。</p> <p>③着色作業では、色の作り方を実演する。道具の使い方についても実演しながら解説をする。</p> <p>④電子黒板を活用して視覚に訴える映画や画像を利用し学習内容の定着を図る。</p>

保健体育科

学年	観点	授業改善プラン
1年		<p>①係の号令による自主的・自律的な動きをつくる。全体の場面で、声を出しやすい環境を整える。</p> <p>②グループ活動の場を設定し多面的な考え方に触れることができるように指導する。学習カードを活用して学習の経過と自分の課題と目標を明確にする。</p> <p>③サーキットトレーニングなどを取り入れ、基礎体力の向上を図る。</p> <p>④運動特性や各種の技能の理解を図るために小テストを実施する。</p>
2年	<p>①運動や健康・安全への関心・意欲・態度</p> <p>②運動や健康・安全についての思考・判断</p> <p>③運動の技能</p> <p>④運動や健康・安全について知識・</p>	<p>①スモールステップの課題を設定して、つまづきや気付きを共有化して課題解決法を考えることができるようにする。</p> <p>②学習カードを活用して個人の振り返りをグループで意見交換できる場を設定する。</p> <p>③スポーツテストへの取組みや全身の体力向上を目的としたトレーニングを充実させる。体力テストの個人分析を行い運動課題に応じたトレーニング法を考えて実践する。</p> <p>④成長・発達の個人差に配慮しながら指導する。運動特性や各種の技能の理解を図るために小テストを実施する。知識を自らの課題解決に結び付ける発問や課題を設定する。</p>
3年	<p>理解</p>	<p>①グループ学習で協働して運動をすることの楽しさを理解できるようにする。課題をグループで共有し解決策を追究する。</p> <p>②個人の振り返りをグループで意見交換できる場を増やす。学習カードを活用して、評価の観点や課題への取り組み方などを示す。</p> <p>③スポーツテストへの取組みや全体の体力向上を目的としたサーキットトレーニングの充実を図る。</p> <p>④運動が発達・成長にどのような影響があるかを理解できるようにする。個人差に配慮しながら、より知識を深めることができるよう小テストや実技書を活用する。</p>

技術・家庭科

学年	観点	授業改善プラン
1年		<p>【技術】 ①学習内容・方法、目標を明確にする。 ②作品の失敗例から工夫すべき点を見つけようとする場を設定する。 ③作業前に道具や工具の使い方の点検を行う。 ④作業計画として組み上げていく「知識」「技能」を実験・体験を通して確かな力を養う。</p> <p>【家庭】 ①観察、実験をレポートにまとめ発表し合うことで関心・意欲を高める。 ②日常生活の中の課題を解決する能力を高めるために、体験した結果をレポートにまとめ発表して、工夫・創造力を高めていく。 ③グループ学習で協力して作業を行い互いの技能の向上を図る。 ④体験学習を通して知識の理解や表現力、思考力を向上させる。</p>
2年	①生活や技術への関心・意欲・態度 ②生活を工夫し創造する能力 ③技能 ④生活や技術についての知識・理解	<p>【技術】 ①学習内容・方法、目標を明確にする。 ②作業全体を見渡せる資料や完成作品などを提示して具体的・創造的に考えることができるようにする。 ③作業ごとに練習問題に取り組む。 ④作業計画として組み上げていく「知識」「技能」を実験・体験を通して確かな力を養う。</p> <p>【家庭】 ①体験学習の課題を増やして習得した知識や技術を実生活の中で生かすことができる指導をする。 ②生活の中の課題をレポートにまとめ発表して、工夫・創造力を高めていく。 ③グループで協力し合い互いの技能向上を図るとともに、実生活で活用できる課題を設定し、作業経験を増やす。 ④基礎的な知識を生かして応用・発展できるようにするために適宜ワークシートを活用する。</p>
3年		<p>【技術】 ①学習内容・方法、目標を明確にする。 ②多面的に考えることができる資料や最新の技術を紹介して深い学びにつなげる。 ③作業ごとに練習問題に取り組む。 ④作業計画として組み上げていく「知識」「技能」を実験・体験を通して確かな力を養う。</p> <p>【家庭】 ①学習内容をレポートにまとめて発表する活動により関心・意欲をさらに高める。 ②学習内容のレポート発表や、制作した作品を相互鑑賞することで感情豊かな表現力や思考力、創造力を高める。 ③体験学習や調べ学習のレポートを作成して発表したり、作品を制作し鑑賞し合ったりする機会を設定する。 ④基本的な知識や技術を実習や体験を通して定着化を図る。</p>

英語科

学年	観点	授業改善プラン
1年		<ul style="list-style-type: none"> ①Classroom English を計画的に導入して授業での生徒の英語の使用率を増やす。 ②初歩的な英語を用いて自分のことを表現できるようにする。また、表現することの楽しさを味わえるようにする。さらに、学期に1回は speech や show and tell などの発表機会を設ける。 ③長文読解力の向上を図る。第1学年終了までに英検5級の実力が身につけられるようにする。 ④毎月1回、スペリングコンテストを実施して計画的に語彙数を増やしていく。また、日本や外国の文化について理解を深めるために、第1学年で学ぶ文型を使ってレポートなどを作成する。
2年	<ul style="list-style-type: none"> ①コミュニケーションに関する関心・意欲・態度 ②外国語表現の能力 ③外国語理解の能力 ④言語や文化についての知識・理解 	<ul style="list-style-type: none"> ①授業をできるだけ英語で進め、コミュニケーションをとる機会を多く設ける。また、毎月100文を目安に英文を書く課題を課していく。 ②毎時間3分程度、会話練習を行う。また、毎月1回程度 ALT とのインタビューテストを行う。文と文や内容のつながりに留意して表現できるようにする。 ③毎回、読む機会を設定して読解力の向上を図る。また、第2学年終了までに80%以上の生徒が英検4級以上の取得を目指す。 ④副教材を活用して単語のインプットを増やす。また、スペリングコンテストを通して書ける単語の数を増やす。
3年		<ul style="list-style-type: none"> ①授業を英語で進めてコミュニケーションをとる機会を多く設ける。また、生徒が互いに学び合う活動を取り入れる。 ②少人数授業の特性を生かして ALT と協働し、英語で自分のことを表現できるよう重点的に指導する。 ③毎回、読む機会を設定して読解力の向上を図る。また、中学校卒業時に英検3級以上の実力を身に付けることを目標に卒業時に70%以上の生徒が英検3級以上の取得を目指す。 ④毎月1回、スペリングコンテストを実施して計画的に語彙数を増やしていく。また、小テストを繰り返すことで、復習する機会を多く設ける。

特別支援学級

学年	観点	授業改善プラン
1年 2年 3年	①心情理解を意識させた物語の読み取りを行う。 ②自己肯定感を高める。 ③書く作業を重視する。	①生徒の実態に合わせた単元の設定を行う。また、視覚教材の共有化を行うとともに、物語の情景や出来事を理解することで、心情理解へつなげていく。さらに、物語の心情理解を実生活に置き換えていく。「ニコニコ」「うなずく」などというキーワードを意識して取り上げる。 ②話し合い活動を工夫するとともに、他生徒を褒めるところから始めることができるようにするまた、グループ学習を中心に行い、小集団の中で話し合いをするスキルを身に付ける。 ③毎日の日課表の中に日記とテーマ作文（短文）を設定する。さらに、自分の考えを入れられるテーマを設定していく。